

予算決算委員会総務文教分科会会議録

招 集

平成30年12月14日(金) 議会委員会室

出席委員(9名)

(分科会長) 岡 田 啓 介 (副分科会長) 矢田貝 香 織
安 達 卓 是 稲 田 清 岡 村 英 治 国 頭 靖
田 村 謙 介 三 鴨 秀 文 安 田 篤

欠席委員(0名)

説明のため出席した者

伊澤副市長

浦林教育長

【総務部】 辻部長

武田防災安全監兼防災安全課長

[秘書広報課] 土井課長

[総務管財課] 高真次長兼総務管財課長 角課長補佐兼総務係長 瀬尻課長補佐兼財産管理
係長

[防災安全課] 池口主査兼危機管理室長 小野川地域安全係長

[調 査 課] 永瀬次長兼調査課長

[職 員 課] 松田課長 矢野課長補佐兼人事係長 橋本研修厚生係長

[財 政 課] 下関課長 長谷川総括主計員 頼田主計員

[契約検査課] 木下次長兼契約検査課長

【選挙管理委員会事務局】 足立事務局長

【総合政策部】 大江部長

黒見人権政策監兼人権政策課長

[総合政策課] 八幡次長兼総合政策課長

[地域振興課] 塚田課長 井上自治振興係長 本干尾主幹

【淀江振興本部】 高橋本部長兼淀江支所長

【教育委員会事務局】 松下局長兼教育総務課長

[教育総務課] 松浦主査兼教育企画室長 木村学校管理係長 生田主幹

[学校教育課] 金川次長兼学校教育課長 竹本課長補佐兼人権教育係長 松本課長補佐兼学
務係長 西村指導係長

[生涯学習課] 片岡課長 菅原図書館長 安田課長補佐兼生涯学習係長

[学校給食課] 山中課長 野口課長補佐兼給食係長

出席した事務局職員

先灘局長 長谷川次長 佐藤主任

傍 聴 者

石橋議員 岩崎議員 遠藤議員 奥岩議員 門協議員 土光議員 又野議員

渡辺議員

一般3人

審査事件

議案第91号 平成30年度米子市一般会計補正予算（補正第3回）のうち当分科会所管部分

~~~~~

**午後1時11分 開会**

○岡田分科会長 予算決算委員会総務文教分科会を開会いたします。

本日は、12日の本会議で予算決算委員会に付託された議案のうち、当分科会の審査担当とされました議案1件について審査いたします。

議案第91号、平成30年度米子市一般会計補正予算（補正第3回）のうち、総合政策部所管部分を議題といたします。

当局の説明を求めます。

八幡総合政策部次長。

○八幡総合政策部次長兼総合政策課長 平成30年度米子市補正予算書の32ページをお開きください。32ページの下段にございます8、土木費、4の都市計画費の1、都市計画総務費がこのたび御審議いただくところです。まず最初に、なぜこの都市計画総務費が総合政策部の所管かというお話を少しだけさせていただきたいと思いますが、御案内のようにことしの4月に機構改革がございました。それで、従来、都市計画課があったのが、このたび都市創造課、あとは都市整備部の建築相談課とか、あと都市整備課に機構改革により3つに分かれました。人件費につきましては、都市計画総務費ということで前は1本だったんですが、このたび3課に分かれた関係でその所管が私どもの総合政策部の都市創造課についたと。その関係で、このたび都市計画総務費の御審議については私どもの所管になったということでございます。金額が2,790万9,000円の経費になっておりますのは、当初予算と比較した場合に費目間の人数が機構改革で変わったからその部分は減額になったということでございます。説明は以上です。

○岡田分科会長 当局の説明は終わりました。

委員の皆様からの意見を求めます。

〔「なし」と声あり〕

○岡田分科会長 それでは、予算決算委員会総務文教分科会を暫時休憩いたします。

**午後1時13分 休憩**

**午後1時15分 再開**

○岡田分科会長 それでは、予算決算委員会総務文教分科会を再開いたします。

議案第91号、平成30年度米子市一般会計補正予算（補正第3回）のうち、教育委員会所管部分を議題といたします。

当局の説明を求めます。

松浦教育委員会主査。

○松浦教育委員会主査兼教育企画室長 議案第91号、平成30年度米子市一般会計補正予算（補正第3回）につきまして、教育委員会所管部分を御説明させていただきます。

ホームページ公開の歳出予算の事業の概要で御説明いたします。それでは、歳出予算の事業の概要の24ページをお開きいただけますでしょうか。24ページの下段、事務局人件費として415万7,000円の減額を計上しております。また、次の25ページの上段、教育長人件費として120万円の減額を計上しております。また、下段、小学校

学校管理費人件費として9,000円を計上しております。また、一つページをめくっていただきまして27ページの上の段、社会教育総務費人件費として3,130万9,000円の減額を計上しております。また、もう一つページをめくっていただきまして、28ページの上の段、給食施設費人件費として102万1,000円を計上しております。これらの人件費に係ります補正の主な理由といたしまして、組織機構の改正に伴います人事異動によるものですとか、教育長の退任、就任に伴います支給減によるものでございます。続きまして、一つページを戻っていただきまして26ページのほうをお開きいただけますでしょうか。上の段、小学校普通教室空調設備整備事業といたしまして9億9,490万円を計上しております。また、下の段、中学校普通教室空調設備整備事業といたしまして3億8,360万円を計上しております。いずれも近年の猛暑の影響から、小中学校の児童生徒の健康を守るとともに学習環境を整えるため、国の補正予算に盛り込まれた国庫補助制度を最大限活用し、小中学校の普通教室に空調設備を整備しようとするものでございます。

次に、平成30年度米子市補正予算書のほうをお開きいただけますでしょうか、38ページのほうをお開きいただけますでしょうか。38ページ、繰越明許費に関する調書でございます。表の下から2行目をごらんいただきたいと思っております。10款教育費、2項小学校費、小学校普通教室空調設備整備事業費といたしまして9億9,490万円を計上しております。また、その下、中学校普通教室空調設備整備事業といたしまして3億8,360万円を計上しております。繰越明許の理由でございますが、いずれも国の補正予算に伴い、このたびの補正予算におきまして計上をさせていただいておりますが、平成30年度の完了が困難なため繰り越しをお願いするものでございます。

**○岡田分科会長** 松下教育委員会事務局長。

**○松下教育委員会事務局長兼教育総務課長兼教育総務課長** ちょっと追加で御説明をさせていただきたいと思うんですけれども、小学校普通教室空調設備整備事業及び中学校普通教室空調設備整備事業につきまして、先ほど御説明いたしましたとおり、この事業は小学校323教室、中学校120教室、合わせて443教室に空調設備を整備しようとするものでございます。事業費は合計で13億7,850万円でございますが、国の補正予算を活用する事業でございまして、年度内の完了が見込めないため、その全額を繰越明許とさせていただきます。本会議でも御答弁させていただいておりますけれども、現在最大限の努力を行って、できるだけ早期に全ての小中学校の普通教室に整備していきたいと考えているところでございますが、何分、国の補正予算に伴いまして、全国一斉にエアコン設置の動きが加速化しておりますので、そのため機器の調達ですとか業者の手配、特に専門技術者の手配につきましては全国的な課題がございまして、本市としても非常に厳しい状況でございます。したがって、こうした事情によりまして、来年度末までの工事完了が変更となる可能性がございまして、これを御報告させていただきたいと思っております。

なお、これは本会議でも御答弁させていただきましたが、平成31年度に事業が完了しない場合の財源措置について、他の市町村も同様の状況が生じていると思われまます。このため、国に対して今回の臨時特例交付金に限った予算措置の柔軟化を要望していきたいというふうに考えております。仮に事業が完了せず、今回の臨時特例交付金が活用できなかった場合には、現在の学校施設環境改善交付金の活用が確実にいけるよう、また交付税措置の拡充等、より一層の地方負担の軽減を行うよう国に要望していきたいというふうに考えております。説明は以上です。

○岡田分科会長 当局の説明は終わりました。

委員の皆様からの意見を求めます。

安達委員。

○安達委員 済みません、何点か。きのうまでいろいろ質問もあつたりしておるんですけども、重なる部分は許してもらいたいんですが、今、補助金のところで局長も説明されたんですが、この交付金申請っていう、そもそもって言うのは事務局担当者さんに申しわけないですが、いつ交付申請を、どの額でどのような交付通知ですか、きのうの説明では内定通知っていうのをいただきました、12月4日付とかって聞いてとったんですが、もともとの申請額はいつ申請されて、その額は幾らで、内定通知は12月4日にこれが来ましたと、もうちょっとこのところで数字の説明があつたらと思うんですが。

○岡田分科会長 松下事務局長。

○松下教育委員会事務局長兼教育総務課長 一つ御説明させていただきますと、交付申請自体はこれからの作業になります。公募要綱等がまだきちっと定まっておりませんので、まだ市のほうにも届いておりません。何を出したかといいますと、10月の末に事業計画というものを提出しております。これは米子市の小中学校のエアコンの設備の計画といひまして、普通教室と特別教室も含めたもので提出しております。この事業計画を提出をする際に、国のほうからの通知で普通教室を最優先するけれども、こういった交付金というのは今回限りの措置なので積極的な計画を上げてほしいというような要請もございまして、市としましては、こういった配分額になるかわからなかったんですけども、普通教室と特別教室を合わせた事業計画というものを提出しております。それに基づきまして、12月4日付で国のほうから一応、その事業計画に基づいて内定通知が届いております。今後、交付要綱と合わせて交付申請をしてくださいというような形になります。この書類が届き次第提出するということになるというふうなことです。

○岡田分科会長 安達委員。

○安達委員 額っていうことを言ったんです。額はその事業計画には盛り込まれたんですか。この額で事業計画を立ててます、の額はなかったんですか。

(「額ですか。」と松下教育委員会事務局長)

○岡田分科会長 木村教育総務課学校管理係長。

○木村教育総務課学校管理係長 今、安達委員さんの御質問で、額につきましては、一応概算という形で提出はしております。ただ、こちらのほうが普通教室の新設であつたり特別教室の新設であつたりというような形で、金額を全ていろんなものを申請しております、金額としては一応出してはおりますが、具体的な額ということなんでしょうか。これは、全体としては一応、実工事費として27億円程度ということで事業計画の申請をしております。

○岡田分科会長 安達委員。

○安達委員 今、お聞きして、ざっとの感覚でいくと半分ですよ、27億を事業計画費として積算した、内定通知は14億ということですよ。こういうのはまれなケースだとは思いますが。そうはいつだって、大きな公共事業をこれからやっという今この時期なんですけれども、本来的に言って、自分よくわからんですが、交付決定なのに交付申請をして、あらかじめ事業計画出せっていう国のやり方っていうのはあんまり聞かないっていうんですか、まれのまれだと思いますが。これからこういう手法を使われるかどうか

かはわからんですけれども、非常に何か聞いてって、ちょっと危険っていう言葉が当てはまるかどうかわからんですが、数字を出せって出して出しました、1カ月ほどで内定通知を出すっていうのは、非常に何か自分、こういうのあんまりないケースだと思うんですよ。随分積算を積み込んできて交付申請をする、そして結構チェックをかけられて交付決定、内定通知っていうんですか、そういうのをやってくると思うんですが、1カ月の間に大きな額を、これは国の補正だからという扱いなのもかもしれませんが、短期間のうちに数字を詰め込んで出して出しなさいっていうありようが、非常に何かわかりづらいですね、今、説明聞いていて。そこに余り注目はしたくないんですが。ちょっと視点を変えますが、今までいろんな議会で私も4年間かせてもらって、暑い夏場の教室のありようが非常に大変だということを、小学校23校ですか、中学校もあって、皆さん暑い時期に温度計で数字を捉えていますよというのが何回か議員の質問に答えが出てきた答弁もあったんですが、その実績と今回の合わせて400教室ですか、その数字との突合っていうのはどのように図られたか教えていただけますか。

○岡田分科会長 松下事務局長。

○松下教育委員会事務局兼教育総務課長 小中学校の普通教室の室温っていうところだと思うんですけども、これにつきましては平成26年度から各学校ごとで年に1回ですけども、7月に室温調査っていうのをしております。そういったデータもこちらの手元には持っておりますけれども、特にことしの猛暑、報道ベースでは災害級の猛暑だというようなことで、非常に気温も高く、当然学校の教室も高温になっているということでいろいろ対策を、例えば小まめに水分補給をすとか、そういったことを学校にも指導をお願いをしていたところですけども、やはり今般の気温の高さというのは非常に高い状況にございますので国も信用してくださるというようなところで、早期にそういった空調の整備は必要だというふうには思っております。

○岡田分科会長 安達委員。

○安達委員 今までずっと室温をはかってきましたっていうデータを事務局は持っておられますよね。そのことが、さっき言った事業計画書に盛り込まれて今回の補正予算額に積算されたというふうにとってよろしいですね。

○岡田分科会長 松下事務局長。

○松下教育委員会事務局兼教育総務課長 事業計画を出したのは10月の末でございます。それと、補正予算につきましては11月になってからということですけども、これも本会議で少し触れさせていただいたんですけども、事業計画のときに特別教室も含めた教室を計画としては上げていったんですけども、その後サウンディング調査といたしまして、いろいろな民間との直接対話等によりまして、そういった機器の調達ですとか技術者の手配ですとか、そういったところが非常に厳しい状況だということを私どもも把握しました。そうしますと、やはり普通教室だけでも非常に、例えば来年度中に完了するっていうことは非常に厳しい状況だということになりましたので、これに普通教室も合わせてということになりますと、ますます工期の面ですとか、そういったところがございましたので……。

○岡田分科会長 伊澤副市長。

○伊澤副市長 質問と答弁がかみ合ってませんので、私のほうから。ずっとこれまで教室の温度の問題、議場でたび重ねて御指摘いただきました、一番最初は岡田委員長さんだっ

たというふうに承知をしております。特にこの夏暑かったということ、そういったことを受けまして、文部科学省はことしの事態を受けてということになりましようけど、教室の基準温度というものを実は変えました。たしか30度を28度に変えてきました。従来は30度という基準温度を見ながら、各教室の温度を感知しながら、それを著しく超えるようなことが常態化しとる教室については順次エアコンをつけさせていただいたということで、予算をお認めいただいて、少しずつでありますけどやってきたということでありまして、そういう環境だったと。議員の皆様からもっとちゃんとやらないけんじゃないかという御指摘があったところではありますが、国自体が基準を変えてきて、そうしますと米子市内の教室は、特にことしなんかそうですけども、ほぼほぼ全部超えていますので、今回全教室の事業計画を出して、そして予算を国のほうに申請したということでもあります。そのところを多分お聞きになりたかったんだろうというふうに思います。

蛇足であります、先ほど安達委員おっしゃってますが、補正予算のときにはこういうやり方っていうのは正直言ってよくあります、いいか悪いかは別ですけど。それから、事業計画というのは、少し言葉を誤解されるかもしれませんが、非常に緻密な計画というものではなくて、国が予算編成する上でのいわゆる予算規模の把握のために地方にどれぐらいの行政需要があるかということをおまかにつかみたいということとやられる趣旨のものでありますので、物すごく緻密に、いわゆる積算をたたいて詰めるという性格のものじゃなくて、それに基づいて今回12月4日付で予算の配分の内定通知があったというふうに御理解いただければというふうに思います。以上です。

**○岡田分科会長** 安達委員。

**○安達委員** 重なるかもしれませんが、できるだけ視点を変え、漏らさずいこうと思うんですが、内定通知のところちょっとまた議論したいと思うんですが、交付金の内定通知が12月4日に来ました、その数字はもう固まって、これから交付申請をして交付決定、内定なのか通知が来ると思うんですよね、順を追って。その数字とはかけ離れることはない、または減額されることもないというふうにとっていいんですよね。繰り返しになりますが、12月4日に出てきた内定通知の額っていうのは、これから正規の申請をされる、交付決定される、その額を下回ることはないというふうに捉えていいかっていうことです。

**○岡田分科会長** 松下事務局長。

**○松下教育委員会事務局長兼教育総務課長** その内定通知につきましては、事業計画に基づいて国が予算配分を内定ということで通知をしてきたと。それには、普通教室の新設部分と特別教室の新設部分も入っております。ですけれども、先ほども説明しましたように、今回の補正予算につきましては、普通教室の整備ということで補正予算を計上させていただいておりますので、その内定通知額を下回った交付申請というふうになる予定でございます。

(「私のほうから。」と伊澤副市長)

**○岡田分科会長** 伊澤副市長。

**○伊澤副市長** 答えはそのとおりであります。委員さんおっしゃるとおりでありまして、先ほど申し上げたような流れでいきます。内定というのはどういう意味かという、この予算を米子市さんにお示ししますので、この範囲内でしてくださいねと。これを超えると当然よその予算を食うこととなりますので、その範囲内で補助金を交付申請をしてくださいねということとありますので、その範囲内で行うものについてはそのまま認められると

いうふうに考えてます。以上です。

○岡田分科会長 安達委員。

○安達委員 局長が予算とここまでの経過を説明されたんですが、言いますけれどもすごく大きな公共事業だというふうにとりますので、業者さんもそうですけれども、資材の調達とか、そういうのが非常に大変じゃないかなと思うんです。全国的にこの事業が展開されるとすると、その資材の確保や、それから業者さんの人手不足とかいろいろ言われる中で対応があるのでしょうかけれども、きちんと確保できる、担保できるかっていうところも心配するんですが。まだまだ補正が今始まったばかりなんですけれど、これから入札契約がきちんとされるのでしょうか。資材の確保とか、そこら辺のタイムスケジュール的なことがきちんと示されると、どうなのか判断をしたいなと思うところで、資材の確保とか、今度は教育現場、今まで夏休みとか春休みの休み期間を有効的に使っておられたと思うんですが、もうずっとこれからは足場を組んで工事が進むと思うんですが、その辺のところを含めて大丈夫かっていう心配するんですが、どうでしょう。

○岡田分科会長 松下事務局長。

○松下教育委員会事務局局長兼教育総務課長 機器の確保、資材の確保につきましては、これまでも業界団体のほうに協力を依頼をしておりますし、今後もそういった確保していただくように引き続き協力要請をしていきたいというふうに思っております。

それとあと、学校のスケジュールですけれども、委員さんおっしゃいますように、これまでは空調ですとか、そういった学校での大きな工事につきましては夏休みを中心にやってきましたところがございますけれども、今回短期間に多くの学校でやらないといけないということでございますので、夏休みだけで集中してやるっていうことは非常に難しい状況ですので、土曜日とか日曜日、さらには夜間につきましても、これは学校への協力をお願いして何とか工事が円滑に行くように進めてまいりたいと思います。具体的には、それぞれの学校で業者が決定してから詳細なスケジュール的なところを、教育委員会も入ってそういったところを調整を図っていこうというふうに思っております。

○岡田分科会長 安達委員。

○安達委員 最後にしておきますが、自分が独占するわけにはいかんですが、今ずっと事業計画書の積算から計画書の見立てからされていたんですが、非常に大きな額というのを何回も言いますけれども、スタッフ的に大丈夫かなっていうのと、これからそういう密な業務が日を追ってやってくるわけですから、外から見とって、セクショナルにスタッフが十分に賄えてるかどうかというところもあたり、2年間ぐらい長期的なスタッフ配置も必要かなと思うんですけれども。非常に他課に広がる場所もあるでしょうし、先ほど来からの教育現場の用立ても大変でしょうけれども、そこら辺をちょっと心配するので、十分なスタッフ配置とかを要望したいと思います。よろしくお願いします。

○岡田分科会長 そのほか委員の方、御意見ございませんでしょうか。

岡村委員。

○岡村委員 ちょっと単純なことでお聞きしたいと思うんですけれども、31年度中には完了できないかもしれないといった状況の中で、こういった形で工事を進められるのかなということなんです。考え方として、例えば31年度中にできるところもあれば、それに間に合わないところもあるというふうな形で進められるのか、そういうふうな工事の進め方の考え方、それをちょっとお伺いしたいと思います。

○岡田分科会長 松下事務局長。

○松下教育委員会事務局長兼教育総務課長 全体の工事完了については、先ほど冒頭に説明させていただいた機器の調達ですとか技術者の手配ですとか、そういったところで非常に厳しいものがあるということは承知しておりますけれども、今現在、私どもが計画を進めているのは、最初からこの学校は次年度以降というような、そういった設定はしておりませんで、できる限りおさまるような形で、ただこれは条件が全てクリア、クリアということで、ハードルを一つずつ越えていった場合に全校できるというようなことで考えておりまして、具体的には設計部分については遅くとも来年の7月ぐらいまでには完了するようなことが、これがまず一つの目安かなというふうに今考えております。

○岡田分科会長 岡村委員。

○岡村委員 確認ですけども、じゃあ、なかなか資材の調達とかというのができにくいので、もうこちらだけを先に優先してやってやるとかいう進め方ではないということですね。

○岡田分科会長 松下事務局長。

○松下教育委員会事務局長兼教育総務課長 その中でも優先的っていいですか、今、私どもが考えておりますのは、中学校を優先的にちょっと設置したいなというふうには思っております。ただ、これも入札の状況ですとか、そういったことでこちらの思惑どおりにはいかないかもしれませんけれども、一応中学校を優先にして、1年間の中では中学校を先に整備したいというふうに……。

○岡田分科会長 伊澤副市長。

○伊澤副市長 少し誤解があってははいけませんので、私のほうから補足させていただきます。これは本会議場でも御質問いただきましたけど、非常に多くの機器を一気に取りつけるという難題に今、我々向かってるところであります。基本的な問題として、改めて申し上げるまでもありませんが、国においては今回、こういった思い切った予算措置をされたのは、本年度第1次補正、この第1次補正というのは何かというと、平成30年度の災害対策という位置づけの中で予算措置をされたものであります。災害復旧であります。その中に学校の防災対策といいましょうか、ある意味災害だという位置づけで教室の高温化を防がなければ、来年度以降何が起きるかわからないという非常に強い危機感のもとに、政府においてはかつてない思い切った予算、全体で御案内のとおり1,000億という予算をつけていただいた。そのうち約820億がエアコンの予算ということでもあります。したがって、かなりそういう時期的にむちゃじゃないかという御指摘も議場でもありましたけど、そういう災害という位置づけの中で予算を措置いただいているものだという事でもあります。ですから、我々もそういう認識で万全の体制をとりながら、先ほど安達委員さんからも御指摘ありましたが、庁内はプロジェクト体制をとって、部局の壁を越えて協力していくということで今進めてるところであります。

したがって、全国的に機器が足りないんじゃないかということとか技術者の不足というようなことが、全国の問題として懸念されてるわけでもありますけども、一般の防災工事でも実は起きることでありまして、なかなか防災の復旧工事が進まないという話はよくある、似たような話であります。ただ、子どもたちのためでもありますので、我々も全力でいきたいと思っております。先ほど松下局長のほうに触れましたが、私も足を運んで、関係業界団体に鳥取の子どもたちのためだけん、とにかくもう一肌脱いで全力でお願いしますわということをお話をしておるところであります。それは受けとめてい

ただいているところであります。

ただ、問題は機器等もありますけど、一番の問題は私が聞いとるところで、冷媒、外機と内機をつなぐところに、前はフロンを使って、ノンフロンですけど、冷媒という特殊なものを流すんですけど、これの配管技術というのが非常に限られた技術者の方でないといけないということのようでありまして、今回一番大きなネックになってるというふうにお伺いしておりますし、もう一つは一番入り口段階の設計、設備設計の業者さんといえば、御案内の方があられるかもしれませんが非常に少ない。近時、大きな建築物なんかありませんので、設備設計の業界というのはぎゅっと縮んでいまして、設計できる技術者が非常に少ないといったような問題があります。こういった問題を一つずつ業界と対話しながら、どう解決できるのか、例えば設備設計については直営の設計を入れます。うちに技師がいますので、一生懸命勉強させて、設計ができるパソコンのソフトなんかを買って、今、直営設計をやっとる。大体4分の1ぐらいから3分の1ぐらいは直営設計でいこうかというようなことも今取り組み始めてるところであります。

予算審議は今、途中でありますが、正直言いますが、予算を御議決いただくことを信じてもうかかってます。そうしないと回リませんので、かかっております。直営ですので、できることをやっていこうと思うんで、これは正直にお話をしておきます。そういったような体制でやっております。御懸念がありますのが、学校をどうしていくのかっていうことでありますが、業界に負担をかけますが、できるだけ何とか早くつけたいということでありまして、できるだけ効率的なつけ方というのを業界とも相談しています。それから、議場でもありましたが、全国のよそからでも呼んできてつけさせりゃいいがなみたいな話もありますが、これは現実的な選択肢ではないと思っております。その一つは、よそでも同じことが起きてますので、実際、県内の業者も既に県外からオファーを受けてるという話も聞いてますので、そうするとうちが県外にとりに行っても、まずそれは余り応援してもらえないという可能性はないということと、あとのメンテナンスのこともございますので、やはりここは県内の業者でしっかり頑張っていたきたいというふうに、だからこそ頭を下げに行っとります、そういう認識でおります。そういった環境の中で、効率のいいつけ方という選択の中から中学校を優先という話が出ているということ、それは中学校という話だけ聞くと、何でという話になりますけど、そういう流れの中での話だということで御理解いただきたいということと、もう一つは、最後のほうにつけ切れん学校が出るんじゃないかっていう話がありますが、何が起きるかといいますと、設計ができたもんからどんどん発注をかけたいと思っております。ただ、そのうち業者のほうも年内に完成させる自信がないものについては、受注者があられないということが起きてまいります。つまり、前の工事が終わらなくて次の工事がとれない、次の工事をとりたくても、もう残の工事、うちはもう工期は平成32年の3月31日までしかとれませんから、そこで工期設定しますので、それがとれないと、とりたくてもちょっとそれは終わらんわということが出てきます。そうなったときにどうするかという話でありまして、これは先ほど局長から申し上げましたが、私は足を運びたいと思っておりますが、文部科学省に対して全国で同じことが起きていますので、ぜひ今回の特例交付金に限ってでいいですから、予算執行の柔軟化をお認めいただきたい、具体的には、通常はお認めいただけませんが、さらに次年度への繰り越しといったものをお認めいただける余地はないのか、あるいは特例交付金なんかでよくありますけども、基金で積んで後年度に執行するというような方法もあるんじゃないか

といったことも含めて、地方の実情を訴えてまいりたいと、このように考えます。

**○岡田分科会長** そのほか委員の方、よろしいでしょうか。

〔「なし」と声あり〕

**○岡田分科会長** それでは、予算決算委員会総務文教分科会は暫時休憩いたします。

**午後 1 時 4 9 分 休憩**

**午後 2 時 1 2 分 再開**

**○岡田分科会長** 予算決算委員会総務文教分科会を再開いたします。

議案第 9 1 号、平成 3 0 年度米子市一般会計補正予算（補正第 3 回）のうち、総務部所管部分を議題といたします。

当局の説明を求めます。

〔「冒頭をお願いします。」と伊澤副市長〕

**○岡田分科会長** 伊澤副市長。

**○伊澤副市長** 済みません、冒頭に御発言をちょっとお許しいただきたいと思えます。入れかわってしまいましたが、先ほどの教育委員会のエアコンの設営の中で大切なことを一つ申し忘れておりましたので、お許しいただければ説明させていただこうと思えますがよろしいでしょうか。

**○岡田分科会長** 委員の皆さんよろしいですか。

〔「異議なし」と声あり〕

**○岡田分科会長** それじゃ、どうぞ。

伊澤副市長。

**○伊澤副市長** 今議会にお諮りする予算をぜひともお認めいただきたいということが前提のお話になりますが、議場でも御議論ございましたし、それから先ほどの中でも出てまいりましたが、通常、国の予算、エアコンの予算なんですけど、非常に厳しくて、なかなかこんなに思い切ったことはなかったです。ただ、災害対策というような位置づけの中で思い切った予算措置をされたということです。ただ、その辺のことが国に要望する際に予算規模をどうするかよくわからなかったんで、国の要請もあったんで特別教室も含めて全部満額を要望してるということは先ほどお話ししたとおりであります。これに対して、ほぼほぼ満額で内示が来ているというのが今の状態でありまして、議場で遠藤議員さんだっただと思えますが、特別教室はしないのかという話がありました。非常に悩ましいのは、普通教室を早くつけようとする、やたら手を広げると、これはこれでまた…（聞き取れず）…になる。一方で、この機会に有利な国の補助金を使って、できるだけバランスをとりながらやるということも考えていかなければならないと。本会議場で御答弁申し上げたのは、特別教室についても各学校の実情を点検して検討したいというような趣旨のことを教育長のほうが御答弁したと記憶しております。素直に言いますと、今の予算にはそれが組み込まれておりません、普通教室分しかございませんので。今、何をしてるかといいますと、各学校の実情の声を改めて聞いております。そうしますと、特別教室に欲しいという声もないわけではないんですが、それよりもむしろ普通教室の、余裕を持つと言ったらおかしいですけど、普通教室の普通に学級が置かれてる部分以外に、例えば中学校なんかはその典型ですが、少人数指導してますので、教室が空き教室なんだけど少人数指導用に使ってる教室があると。むしろそちらのほうの教室のほうに目を向けんといけないというふうなお声ですとか、近時、特別支援学級かどうかは別として、多様な子どもたちの配

慮で、どうしてもなかなか一緒に授業を受けられないというお子さんがいらっしゃる時に、やはり余裕教室を使うということがあると。こういった教室のほうにも目を向けてほしいというようにお声を改めて聞いております。特別教室やこういった普通教室の多様な活動の方法なんかも改めて点検しながら、迅速に取りつけるということと両立させる範囲で、国の予算の活用を前向きに検討していきたいと、このように思っております。結果として今の予算で、場合によっては足らなくなる可能性が出てまいります。そういった部分につきましては、今の私の発言の趣旨を御理解いただいて、最終的には3月議会のほうにまたお諮りする部分が出てくる可能性があるということだけ今申し述べておきたいと思っておりますので、御承知いただければと思います。以上であります、ありがとうございました。

**○岡田分科会長** それでは、総務部所管部分を議題といたしますので、当局の説明を求めます。

下関財政課長。

**○下関財政課長** それでは、議案第91号、平成30年度米子市一般会計補正予算（補正第3回）のうち、本分科会に付託されました総務部所管の補正予算につきまして御説明させていただきます。

事前にお配りしております歳出予算の事業の概要、こちらのほうで御説明をさせていただきたいと思っております。それでは、先ほどの歳出予算の資料の概要の3ページ目をお開きください。上の段、非常勤職員報酬等としまして333万2,000円を計上しております。これは窓口の提携業務の非常勤化に伴う非常勤職員に係る経費を措置するものでございます。

続きまして、同じく下の段、米子ゴルフ場環境整備事業としまして400万円を計上しております。これは米子ゴルフ場の松枯れ被害木の見込み増に伴いまして、200本分の伐採処分費を追加するものでございます。

続きまして、4ページ目の上の段、防犯対策推進事業としまして、200万円を計上しております。これは防犯灯の新設やLED照明への切りかえ経費に対する助成でございまして、実績見込みの増により追加するものでございます。

このほか、異動等に伴う人件費の実績見込みによりまして、1ページ目の議会事務局職員人件費と一般管理費人件費、2ページ目上段の特別職人件費、7ページ下段の選挙管理委員会事務局職員人件費、8ページの統計調査総務費人件費と監査委員事務局人件費につきまして、それぞれ人件費を計上しております。説明は以上でございます。

**○岡田分科会長** 当局の説明は終わりました。

委員の皆様からの御意見を求めます。

〔「なし」と声あり〕

**○岡田分科会長** ないようですので、予算決算委員会総務文教分科会を暫時休憩いたします。

**午後2時19分 休憩**

**午後2時20分 再開**

**○岡田分科会長** それでは、予算決算委員会総務文教分科会を再開いたします。

分科会長報告のための意見の取りまとめを行います。

御意見がありましたら、発言をお願いいたします。

〔「なし」と声あり〕

○岡田分科会長 それでは、特になかった旨報告をさせていただきますので、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と声あり〕

○岡田分科会長 以上で、予算決算委員会総務文教分科会を閉会いたします。

**午後 2 時 2 0 分 閉会**

米子市議会委員会条例第 2 9 条第 1 項の規定により署名する。

予算決算委員会総務文教分科会長 岡 田 啓 介